

IV

保健福祉

1 地域福祉の充実

ゴール							
ターゲット	1.2, 1.3	2.1	3.4	10.3	11.2	12.3	17.17

現状と課題

本町に住むあらゆる人の生活の安定や生活課題の解決のため、「第二次大泉町地域福祉計画・大泉町地域福祉活動計画」に基づき、生活困窮者等に対する生活相談並びに就労対策としての無料職業紹介所事業などのほか、子どもの孤食防止や見守り並びに地域における世代間交流としての子ども食堂事業への支援などを行うとともに、互助・共助の体制づくりを促進しています。

核家族化、高齢化、家族の在り方の変容、それに伴う近所付き合いの希薄化が進む中、地域でのつながりを強化することが重要です。

今後、継続して各種支援事業を行うとともに、より効果的かつ感染症等の影響下における新たな支援方法の検討並びに高齢者や障害者をはじめとする交通弱者への移動手段を整備し、利用促進を図っていく必要があります。

施策の基本方針

地域のつながりを強め、町民の孤立・孤独の防止を図っていくため、保健福祉総合センターを地域福祉の拠点として関係機関等と連携しながら、必要な人が必要なサービスを受けられるよう努めています。

また、地域福祉を推進するため、福祉の担い手を育成するとともに、緊急時や非常時においても支え合えるよう、地域のつながりを強化していきます。日常の移動手段の確保についても、各種交通機関の利用状況を検証しながら、交通弱者のニーズに合った手法を検討していきます。

主な取り組み内容

- 生活の拠点である地域での支援が必要な人への相談・支援
- 子ども食堂運営団体への支援
- 各種団体への補助の継続
- 関係機関等との連携強化
- 地域で活躍できる人材の育成
- 住民相互の助け合い、支え合いの活動の促進
- 交通弱者に対する移動手段の確保と利便性の強化

KGI（重要目標達成指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
地域福祉について満足している人の割合	32.4%	34.1%

KPI（重要業績評価指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
子ども食堂ネットワーク会議の開催回数	5回	12回
ボランティアセンターへの登録者数	905人	1,200人
大泉町地域福祉計画・大泉町地域福祉活動計画の啓発回数	—	15回

2 子育て支援の充実

ゴール	1 健康なこども	3 すべての人に健康と福祉	10 人や国の不平等をなくそう	16 平和と公正な世界を築く	17 パートナリシップで目標を達成しよう
ターゲット	1.3	3.1, 3.2, 3.7	10.2	16.2	17.17

現状と課題

安心して子どもを産み育てることのできる環境を創出するため、「第2期大泉町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、「大泉町子育て世代包括支援センター」による包括的な相談対応を行うほか、依然として発生している児童虐待については、関係機関等と連携しながら対応しています。

次世代を担う子どもを健やかに成長させるためには、引き続き、子育て支援サービスや制度を充実させていくことにより、妊娠期からの切れ目ない支援を行っていくことが重要です。

子育てに対する経済的・精神的不安を更に軽減する支援を検討していくとともに、児童虐待については、未然防止につなげられるよう関係機関等と連携した啓発活動を継続し、さらに相談支援体制の充実に取り組んでいく必要があります。

施策の基本方針

「大泉町子育て世代包括支援センター」を拠点に、妊娠期から切れ目ない支援を提供するとともに、多様化する子育てニーズに対し、保護者が必要とするサービスを確実に受けられるよう、更なる保育の充実に向けた取り組みを行っていきます。

また、教育、保育、子育て支援の施策を計画的に推進していくための「第2期大泉町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、児童館や学童保育などで子どもの遊びや生活の場を確保していくとともに、ファミリー・サポート・センター事業などによる保護者の日常生活への支援や育児負担の軽減に加え、仕事と家庭の両立に向けた支援などに取り組んでいきます。

さらに、地域や関係機関などが連携しながら子育てを支援していく体制を更に強化し、児童虐待については未然防止のための啓発を行うとともに、虐待のおそれのある児童については、児童やその保護者に寄り添って継続的に支援していきます。

主な取り組み内容

- 「大泉町子育て世代包括支援センター」を拠点とした子育て世代に対する総合的な支援
- 子育て支援サービスの充実
- 保護者の子育てに対する経済的負担の軽減
- 地域や関係機関と連携した子育て支援体制の強化
- 児童虐待への対策及び相談支援体制の充実

KGI（重要目標達成指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
子育て支援について満足している人の割合	40.9%	43.0%

KPI（重要業績評価指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
子育て育児用品購入費助成件数	320件	343件
子育て世代包括支援センター相談件数	48件	100件
ファミリー・サポート・センター活動回数	2,157回	3,410回

3 障害者福祉 の充実

ゴール								
ターゲット	1.3	3.4	4.5, 4.a	8.5, 8.6	10.2	11.2	16.1, 16.2	17.17

現状と課題

障害のある人が安心して地域で生活していけるよう、本町の障害福祉施策全般を総合的・計画的に定める「第六次大泉町障害者基本計画」並びにその実施計画である「第6期大泉町障害福祉計画・第2期大泉町障害児福祉計画」を策定し、様々な障害福祉サービスを必要とする人に適切に提供できるよう体制を整えています。

また、障害のある人やその家族の高齢化が進んでいる中、事業者に対してグループホームの建設を促進するなど、それを支えるための環境整備を行っています。

障害のある人もない人も、年齢や性別にかかわらずすべての人が住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりには、町民一人ひとりが互いを尊重し支え合う「共生」のまちづくりを推進することが重要です。

本町における障害の状況を精査し、引き続き障害の程度や特性に応じた福祉サービスを提供するとともに、利用者のニーズに応じていけるよう、基盤整備を含めた社会資源の充実に向けた検討を進めるほか、障害福祉に対する理解の促進を図る必要があります。

施策の基本方針

「第六次大泉町障害者基本計画」に基づき、障害の有無にかかわらず誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生社会」の構築を目指していきます。

「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」では、障害のある人への合理的配慮【※16】を求めていることから、各窓口において適切な対応ができるよう職員の意識向上を図り、合理的配慮の提供による社会的障壁の除去を推進していきます。

さらに、障害のある人に対し、特性に合わせた福祉サービスを地域で提供していけるよう、事業者や関係機関、行政各分野が連携しながら相談支援体制の更なる充実を図るとともに、サービス提供や活動場所となる社会資源の整備に努めていきます。

主な取り組み内容

- 障害者差別の解消に向けた啓発活動の推進
- 虐待防止や権利擁護に関する支援体制の整備
- 相談支援体制の充実
- 障害福祉サービス提供の体制整備
- 施設などの基盤整備や必要なサービスの充実

※16 合理的配慮…障害者の社会的障壁を取り除くために状況に応じて行われる無理のない配慮のことをいいます。

KGI（重要目標達成指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
障害者福祉について満足している人の割合	25.3%	26.6%

KPI（重要業績評価指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
障害福祉に関する理解を深めるための啓発動画再生回数（累計）	6,965回	41,200回
障害福祉サービス（介護給付費・訓練等給付費）の支給決定者数	194人	220人
障害児通所支援給付費の支給決定者数	92人	104人

4 高齢者福祉の充実

ゴール			
ターゲット	8.5	11.2	17.17

現状と課題

誰もがいつまでも住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、大泉町高齢者保健福祉計画に基づく施策を推進している中で、一人暮らし高齢者の見守りを兼ねた安全対策として緊急通報装置や熱中症計の貸与を行うほか、災害時などの避難に支援を必要とする人については、避難行動要支援者名簿を作成し、自主防災組織等と情報共有を行うとともに、個別避難計画の整備にも取り組んでいます。

さらに、高齢者が社会参加を通じて生きがいの創出や健康づくりにつなげていけるよう、老人クラブの活動や関係団体に対する支援に加え、高齢者の日常生活の移動手段である「高齢者等デマンド交通」に対し、ドア・ツー・ドア【※17】運行を導入するなど利便性の向上を図っています。

将来人口推計では、今後も老年人口は増加の推移を示していることから、引き続き高齢者の健康づくりや生きがいづくりへの支援として、自立した生活を支援するための事業の充実を図っていくことで高齢者が社会に参加できる地域づくりを進めていくとともに、地域全体で支え合う介護予防体制の構築や介護予防自主グループの設立支援をはじめとした介護予防に取り組んでいく必要があります。

施策の基本方針

高齢者がいつまでも元気で生き生きと暮らしていけるよう、家庭訪問による生活状況の把握や各種介護予防教室を開催していくとともに、高齢者も含めた町民が主体となって行う介護予防活動などに対して支援していくことで、高齢者が活躍できる社会づくりを推進していきます。

また、要介護状態となった高齢者が住み慣れた地域で住み続けることができるよう、地域包括支援センターを拠点に、本人やその家族への支援をはじめ、地域全体で支える体制整備を推進していきます。

さらに、高齢者の移動手段については、更なる周知を行うことで利用を促進するとともに、各種交通機関の利用状況を検証しながらニーズに合った手法を検討していきます。

主な取り組み内容

- 高齢者宅への訪問による実態把握
- 介護予防事業の実施
- 特殊詐欺等対策機器の設置の推進
- 介護支援ボランティアや介護予防・認知症サポーター等の育成
- 高齢者等デマンド交通の周知及び活用促進

KGI（重要目標達成指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
高齢者福祉について満足している人の割合	30.7%	32.3%

KPI（重要業績評価指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
高齢者等デマンド交通の乗車人数	4,049人	4,630人
特殊詐欺等による高齢者の被害件数	7件	0件
介護予防自主グループ数	20グループ	24グループ

※17 ドア・ツー・ドア…町が運行するデマンド交通「ほほえみ」の運行形態で、利用者宅を発着とすることができるものです。

5 医療体制と保険制度の充実

ゴール	3 すべての人に 健康と福祉を 実現しよう	17 持続可能な 社会を実現しよう
ターゲット	3.4, 3.8	17.17

現状と課題

すべての人が安心して暮らしていける社会の実現に向け、国民健康保険及び後期高齢者医療制度加入者に対しては、疾病の早期発見、早期治療による重症化予防に向けて特定健康診査及び人間ドックの受診を促進するとともに、特定保健指導を通じて生活習慣病の発症予防に努めています。

必要な時に必要な医療を受けられる体制を維持していくためには、基盤となる国民皆保険制度において重要な役割を担う各保険制度を今後とも持続させることが重要です。

また、介護保険制度については、適正な給付を確保するとともに、認知症の人や家族、地域住民、専門家が集い、リフレッシュや情報交換を行うため、認知症カフェの拡充に取り組んでいます。高齢者が安心して生活が送れるよう、地域の住民、医療、福祉関係の機関・団体等の連携による地域全体で見守り支える仕組みを更に充実させ、地域包括ケアシステム【※18】を確立させる必要があります。

施策の基本方針

町民一人ひとりが健康について身近で相談できるよう、かかりつけ医などを持つように啓発するとともに、すべての町民が必要な時に適切な医療を受けられる体制を維持していくため、関係機関等との連携を強化していきます。

また、国民皆保険制度に基づき、被保険者や受給者への適正かつ効果的なサービスが提供できるよう、引き続き各制度の仕組みや意義についての周知を行っていきます。

国民健康保険については、安定した保険基盤を維持するために医療費の適正化を推進していくとともに、「第2期大泉町国民健康保険保健事業実施計画」に基づき、特定健康診査の実施にあたっては、対象者の利便性に配慮していくことで目標とする受診率の達成を目指していきます。

介護保険については、国の制度改正に対応しつつ、持続可能な制度としていけるよう、介護事業者やケアマネジャーに向けて適正な給付の確保についての啓発を行うほか、地域包括ケアシステムの確立に向け、地域包括支援センター、医療、関係機関、各種団体や町民との連携を更に充実させます。

主な取り組み内容

- 地域医療の充実と救急医療体制の強化
- 医師会、歯科医師会、医療機関との連携強化
- 資格管理【※19】の適正化の推進
- 介護保険事業の適正な運営
- 地域包括ケアシステム確立に向けた体制整備
- 保健事業と介護予防の一体的推進

※18 地域包括ケアシステム…重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される体制のことをいいます。

※19 資格管理…市町村による被保険者の国民健康保険、後期高齢者医療制度、介護保険の資格取得及び喪失管理のことをいいます。

KGI（重要目標達成指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
医療体制や保険制度について満足している人の割合	41.1%	43.1%

KPI（重要業績評価指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
40歳以上の国民健康保険被保険者の人間ドック受診率	2.9%	5.7%
ケアプラン点検数	24件	34件
介護予防把握事業での調査回数	802回	940回

6 健康の保持増進

ゴール	3 3.2020年度 健康増進	17 17 がん対策 がん患者の 生活の質を 向上させる
ターゲット	3.2, 3.4 3.5, 3.8	17.17

現状と課題

心と身体の健康の保持・増進のため、各種けんしん、健康相談や各種健康教室などを通じて各ライフステージにおける健康づくりに取り組む中で、子育て世代に対しては、「大泉町子育て世代包括支援センター」の支援プランに基づく支援を行っているほか、令和3年度には「がん患者医療用ウィッグ等購入費補助事業」や「若年がん患者在宅療養費補助事業」を開始しました。

また、依然として社会問題となっている自殺問題に対しては、「大泉町自殺対策基本計画」を策定し、包括的に自殺対策を推進しています。

町民の健康寿命の延伸のために、今後も生涯を通じた健康づくりのための支援を行っていく必要があります。生活習慣病対策、がん対策、歯科保健対策、精神保健対策を推進するほか、各種けんしん等については、受診率向上に向けた啓発や受診しやすい環境を整えていくことが重要です。

施策の基本方針

誰もが生涯を通じて健康を維持していけるよう、生活習慣病をはじめとする疾病予防について周知・啓発し、町民が日常的に生活習慣の改善に取り組んでいくための相談や指導を行っていきます。

また、各種けんしんや健康相談、健康教室など、ライフステージに応じた取り組みを推進していく中で、子育て世代に対しては、「大泉町子育て世代包括支援センター」を拠点に、妊娠期から子育て期まで切れ目なく支援していくほか、がん患者やその家族に対しては、支援策の更なる周知を図ることと利用を促進していきます。

自殺問題に対しては、健康状態や社会的問題など自殺に至る原因が多岐にわたることから、関係機関等と連携しながら自殺対策を推進します。

これらの取り組みを推進していくうえでは、町民の安全性に十分配慮するとともに、参加や利用がしやすい環境を整備します。

主な取り組み内容

- 「大泉町子育て世代包括支援センター」を拠点とした子育て世代に対する総合的な支援
- 各ライフステージにおける健康づくりのための横断的な保健サービスの提供
- 感染症予防を徹底したうえでの各種けんしんの受診促進
- 医療機関等と連携したがん患者支援事業の推進
- 包括的な相談から支援につなげるための自殺予防相談体制の整備

K G I（重要目標達成指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
町で実施する各種保健事業について満足している人の割合	49.9%	52.4%

K P I（重要業績評価指標）

	2020年度 基準値	2025年度 目標値
子育て世代包括支援センターにおいて面談した妊婦の割合	100.0%	100.0%
大腸がん検診受診者数	－	2,400人
自殺者数	3人	0人